

LMcorsa

60  **H.YOSHIMOTO**
 **D.FARNBACHER**

SUPER GT 2019 Race Report Rd.2 Fuji GT

5月3日 | 天候：晴れ | コース：富士スピードウェイ | 路面：ドライ(路温 40度)

Qualifying Day Summary

公式練習からグリップ不足に悩まされたSYNTIUM LMcorsa RC F GT3
予選前に大幅なセットアップ変更を行なったものの
予選Q1で22位となり、明日の決勝レースは22番手から追い上げを図る

Qualifying Day

例年通りに岡山国際サーキットにて幕を明けた
AUTOBACS SUPER GT の2019年シーズン。
4月13日-14日に開催された開幕戦の決勝レースは天候に恵まれず、30週の時点で雨量が増えたため予定されていた82周を走り切らないまま中止となった。



6シーズン目の挑戦となる LMcorsa は、予選でQ2に進出して12番グリッドを奪取。決勝レースは度重なるアクシデントによってセーフティカーが頻繁に入ることとなった。そんな、コンディションの悪い中でも SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 は、着実に順位を上げて7位でレースを終える。ただ、決勝レースが成立するのは82周の75%以上を走行する必要があるため、付与されるポイントは通常の半分となった。この規定によって7位で2ポイントを獲得。決勝レースの距離は短くなったが、これまで苦手としていた岡山国際サーキットで入賞したことでチームの士気も上がり、第2戦の富士スピードウェイラウンドに挑むこととなった。

第2戦の「FUJI GT 500km RACE」は、5月3日(金)、4日(土)の二日間に亘って実施され、3日には公式練習と予選、4日には長丁場となる500kmの決勝レースが行なわれる。今回の富士スピードウェイラウンドは第二ドライバーの宮田莉朋選手がGT500クラスのマシンに乗るため、第2回の公式テストでSYNTIUM LMcorsa RC F GT3のステアリングを握ったドミニク・ファーンバッハー選手が助っ人としてチームに加わった。

第2戦の「FUJI GT 500km RACE」は、5月3日(金)、4日(土)の二日間に亘って実施され、3日には公式練習と予選、4日には長丁場となる500kmの決勝レースが行なわれる。今回の富士スピードウェイラウンドは第二ドライバーの宮田莉朋選手がGT500クラスのマシンに乗るため、第2回の公式テストでSYNTIUM LMcorsa RC F GT3のステアリングを握ったドミニク・ファーンバッハー選手が助っ人としてチームに加わった。

Qualifying Day

3日はゴールデンウィークということもあり、早朝から多くの観客が富士スピードウェイを訪れ、公式練習と予選を見守った。公式練習は予定通りの8時50分にスタートする。まずは、吉本選手が各部のチェックを行なうためにコースイン。7周を走るとファーンバッハー選手が乗り込み5周を走行する。2人のドライバーがマシンとコースのコンディションを確認すると、吉本選手が



持ち込みタイヤのチェックやセットアップを進める。公式練習開始から1時間が経過したところにファーンバッハー選手が再びSYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込み周回を重ねる。公式練習は2人のドライバーが合計で40周を走行し、吉本選手が記録した1分38秒246がベストタイムとなり、22番手という結果となった。

<予選>

公式練習後には20分間のサーキットサファリが実施され、ここでも2人のドライバーがSYNTIUM LMcorsa RC F GT3のステアリングを握って、予選前の最終確認を行なった。29台が一斉に競った予選Q1は14時30分から15分間に亘って実施され、トップから16番手までが予選Q2に進出することになる。午前中から富士スピードウェイには強い日差しが照り付け、予選時の気温は20℃、路面温度は40℃を超えた。

予選Q1を担当した吉本選手は、コースオープンとともに周回を始める。インラップから3周を掛けて入念にタイヤやブレーキに熱を入れると4周目に1分38秒065をマークし、翌周には1分37秒816までタイムアップする。しかし、ライバル勢はさらに好タイムを記録したため、22位となり予選Q2への進出を逃した。

明日の決勝レースは22番グリッドからのスタートだが、通常よりも200km長い500kmの距離で競われる。そのため戦略やレースラップが重要となるので、諦めずポイント圏内を目指してチーム一丸となり戦っていく。



Team Comment



Director :飯田 章

オフシーズンや公式テストなどで走行距離を重ねてきたので、このような結果になるとは想像していませんでした。現状を引きずってしまうとシーズンに影響が出る可能性もあります。そのため、チーム一丸となり問題点を洗い出して、見直していきます。それでも明日のレースは500kmと長距離で、2回のピットストップが義務付けられています。戦略次第ではポジションを上げることができるので、諦めることなく戦っていきます。



Driver :吉本 大樹

事前の公式テストで得たデータを元にしてセットアップを進めてマシンを持ち込んだのですが、コースコンディションと合っていなかったようです。公式練習からグリップが不足していて、解決策を探りながら走行を続けました。予選に向けては、大幅にセットアップを変更して臨みました。それでも状況に大きな変化はなく、22番手となってしまいました。明日の決勝レースは500kmと長く、ドミニク選手もマネージメントが上手いドライバーなので、力を合わせて少しでの上位を狙っていきます。



Driver :
ドミニク・ファーンバッハー

3月末の公式テストで乗ったときと比べるとハイスピードコーナーでのグリップ不足とセクター3でのトラクションも少なくなっています。テストのときに感じたスピードを見つけることが難しい状況です。ただ、明日の決勝レースは路面のコンディションも変わるので、良い方向になるはずですが、また、雨が降るかもしれないと聞いているので、その状況になれば戦況が変わってくると考えています。とにかく、今はチーム一丸となり最適なセットアップを見つけている状態です。

